



東芝インターナショナル米国社

11月4日(土)、ヒューストン日本語補習校の中学部2年生16名の生徒と引率の先生方が、工場見学のため、弊社、東芝インターナショナル米国社を訪れました。

1973年にこの地で事業を開始して以来、弊社では産業用のモータやそれを制御するインバータ、無停電電源装置をはじめ、社会を支える様々な製品をつくってきました。今回の見学では、弊社の主力製品の一つである車載用モータをテーマに、モータの仕組みや製造工程などを学んでいただきました。

当日は、夏が戻ってきたような陽気の中、スクールバスに乗って補習校のみなさんが到着されました。まずは講堂での座学です。弊社概要、モータの仕組みに加え、モノづくりの考え方についても学んでいただきました。生徒の皆さんにも参加いただいたモータ模型の動作実験では、和やかな雰囲気の中にも、真剣に考え、観察する姿が見られました。

見学タイムでは、弊社製品のショールーム、車載用モータの製造ライン、弊社モータが搭載されているハイブリッド自動車を見学いただきました。製造ラインでは安全メガネを着用いただいたの見学です。車載モータでは、車載品質の維持と量産速度の確保のために、多くの自動機を導入しています。ずらりと並んだ機械と作業員が連携し、テンポよく製品が組み立てられていく様子に、生徒の皆さんも驚かれた様子でした。中には、素早く製品を組み立てていくロボットの動きに魅了されたのか、「これ、欲しい!」という生徒さんも。自ずと見学にも力が入り、時にメモを取りつつ、熱心に説明員の言葉に耳を傾けてくださいました。

見学タイムの後には、講堂に戻り、質疑応答の時間を取らせていただき

ました。たくさんの質問をいただきましたが、「設計を他社に真似されてしまわないのか?」など、知財管理、品質、工場運営など、重要ポイントに関する鋭い質問が多く、生徒の皆さんの着眼点の良さに驚かされました。答える側の私たちの気持ちも引き締まり、少し緊張しながらの質疑応答タイムとなりました。

最後には生徒の皆さんからお礼の言葉をいただきました。立派な見学レポートを作成するとの決意表明もいただき、私たちとしても嬉しく、また頼もしく感じました。記念撮影での皆さんの笑顔が、有意義な時間を過ごしていただけたことの何よりの証であると信じております。

「人と、地球の、明日のために。」私たち東芝の経営理念です。今回の工場見学を通じて感じていただいたことが、生徒の皆様明日に繋がる一助となりましたら幸いです。様々な経験を通して、皆様一人一人が、地球という大きな社会へ貢献する存在へと成長されることを期待しております。
(東芝インターナショナル米国社 磯野 太施)



ダイキン工業株式会社グループ

11月11日(土)にヒューストン日本語補習校の小学3年生がダイキングループ弊社工場(以下、ダイキン)に来訪しました。ダイキンは、ヒューストン中心部から30分ほどのWaller市にあり、土地面積約200万㎡、延床面積は37.3万㎡で、工場としては北米第3位の大きさです。

最初にオーディトリウムで会社概要やエアコンについての説明を行いました。その後、3グループに分かれて安全道場、工場、商品ショールームを順番に見学してもらいました。

安全道場とは、実演を通じて一人一人の安全意識を高めるための施設です。

特に好評だったのが、ヘルメットの有効性の実演(植木鉢に上から鉄の玉を落とす実験)でした。ヘルメットをかぶせた植木鉢は壊れませんが、かぶせていない植木鉢はバラバラになります。目の前で大きな音をたてて植木鉢が壊れるのを見てもらい、「例えば自転車に乗って転んだとき、ヘルメットをした状態としないときでは、こんなに頭への衝撃が違うんだよ。」と説明しました。実験を目の前で見る事で、身体を守るための装備の大切さを理解でき、安全の大切さを体験してもらえたと思います。

続いて、カートに乗ってエアコンの室外機を作る組立ラインと、完成した商品を保管している倉庫を紹介しました。

組立ラインでは、無人の部品搬送車と部品取付け用ロボットの説明をしました。ロボットと人が仕事を分担してエアコンを組立てる様子に子供達は興味津々で、「(ロボットが)動いてる!」と感動した様子でした。倉庫では、直線距離950mの通路を紹介。「広い!」「こんな大きい倉庫が埋まるほどエアコンを作ってるの!？」と驚きの声があがりました。

ショールームでは、まずエアコンをお客様にお届けするまでには沢山の人の力が必要なることを説明しました。その後、展示された商品を見せなが

ら、エアコンの構成や、アメリカと日本ではエアコンの見た目が違うことなどについて説明しました。また、稼働中の室外機の音を体験してもらい、動いているかどうかわからないぐらい静かな作動音に子供たちは驚いていました。

オーディトリウムに戻っての質疑応答では、エアコンに使われる部品の数や工場で作っているエアコンの機種数など、具体的に鋭い質問が続々と飛んで来て、さすがの専門家たちもタジタジになりました。

この工場見学を通してエアコンをより身近に感じていただけたと共に、たくさんの小さい部品からエアコンができていくこと、身の回りの現象を活用してつくられていることに興味を持ってもらえたと思います。子供達がモノづくりへの興味を深め、学ぶことの面白さをより感じるきっかけとなれば幸いです。
(ダイキン補習校見学会事務局)

